



## 今回は、2 年 5 組によるフィールドワークの報告します。

### ◇関市保健センターを訪問し、食べ物について学びました！

日 時： 2018 年 8 月 7 日(火)

訪問先： 関市保健センター

内 容： インタビュー

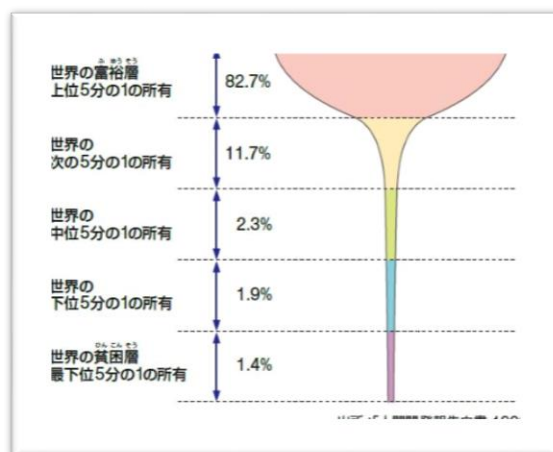
参加者： 遠山育也 後藤克輝 佐藤洸太 芝田海渡

### ◇貧困とは何か？

現在、世界の子供のうち 3 人に 1 人が栄養失調で 5 歳になる前までに死んでしまいます。栄養が足りないと、学ぶ力や集中力も弱くなり、成績が悪くなりがちです。生まれてから 2 歳の誕生日をむかえるまでの 1000 日間に栄養失調になってしまったら、この後、いくら栄養を取っても完全な回復は難しいようです。

次に、お金のことです。世界の富裕層の人たちは、世界の所得の約 83% をもち、最貧層の人たちは、世界の所得の 1.4% しか持っていません。1 日 1.25 ドル未満で暮らす人々は貧困層とよばれますが、それでは、3 ドルの人はどうでしょう。お金がある程度持っている人がいても、その人が住んでいる地域に電気がなかったら、どういう生活になるのでしょうか。いろいろ私たちが考えるべきことはあります。インターネットだけでは調べることが限られます。

少ないお金を寄付することでたくさんの人、何日も食べ物に困らないようにすることもできます。まだまだ、私たちは貧困について知らないことはたくさんあります。だから、知る機会があったら進んで貧困について興味を持つようにしたほうがいいと思います。



### ◇ 私たちの感想

私たちは、今回の SGH の活動を通して、いろいろな発見がありました。

私たちのテーマは貧困でした。はじめは、私たちは、貧困はアフリカで多く見られると思っていました。しかし、インターネットなどを使って調べてみると、貧困にはいろいろな種類があり、決して私たちに関係のないものではありませんでした。日本にも隠れ貧困というのがあり、そういったものにならないためにも、貧困について興味を持ったほうがいいと思います。

まずは知ることが大切です。今度は、今回学んだことを多くの人々に知ってもらおうようにして、行動に移せるようにしたいです。



SDGs のロゴより

**今回は、2年5組による日本国際飢餓対策機構へのフィールドワークの報告します。**

◇日本国際飢餓対策機構を訪問し、飢餓について学びました！

日 時： 2018年7月26日(木)  
訪問先： 日本国際飢餓対策機構(名古屋市)  
内 容： 飢餓の問題と解決について

+参加者： 岡本拓也 濱嶋幸太 安藤 航 大野達郎

◇ 飢餓問題とその対策 ～ハンガーゼロ自販機～

現在の飢餓の現状として特にアフリカなどで深刻な飢餓の問題が起こっている。国連などが対策に当たっているが根本的な対策にはなっていない。飢餓を解決するために必要なのは飢餓に直面している人々が自分たちで問題解決し、自立性を身に着けることである。しかし未だ食料支援は必要不可欠である。そこで自分たちが身近に何ができるのか。ハンガーゼロという方法がある。そこで飲み物を買うと10円が募金される。募金するとき大切なことは自分たちが何に募金しているのかをすることだ。

また100円ショップを利用しないことも飢餓を解決するきっかけになるそうです。ハンガーゼロ自販機は基準さえ満たせばどこにでも設置できる。募金する側ではなく募金を催す側にもなることができる。これからはそういうことにも意識しながら生活していきたいと思った。

この度は日本国際飢餓対策機構の浅野ゆう子様にお話しをうかがわせていただきました。



◇ 私たちの感想

このフィールドワークを通して僕たちは自分たちがどれだけ幸せな生活をしているのかじっかんしました。水を自由に使えたり、電気を使えたりする不自由のなさです。

お話しを聞きアフリカだけでなく中国のような先進国でも飢餓があるということを知り驚きました。また募金をする際にどのようなことに募金しているのかということも知ることも大切だとわかりました。

自分たちにできることは数少ないけれどフィールドワークで学んだことをいろいろな人に伝えていきたいとおもいました。



SDGsのロゴより

## 今回は、2年5組によるわかかさプラザでのフィールドワークの報告します。

### ◇ダイバーシティ関シンポジウムを訪問し、L G B T について学びました！

日 時： 2018年7月1日(日)13:30~16:00

訪問先： わかかさプラザ

内 容： L G B T について

参加者： 吉川涼華 高井唯奈 坂井香菜 天野春歌

### ◇L G B Tの方たちの苦勞

7月に若草プラザで行われた、ダイバーシティ関シンポジウムという、関高校の先輩方が開催した会に参加しました。3年生の先輩方が1年間研究した内容や、動物の性についての話を聞きました。また、6、7人のグループでL G B Tの話題について自分たちの考えを交流しました。テーマは「学校の制服とトイレについて」でした。例えば、制服についての話題では、「自分の好きな制服を選べるようになったらいい。」という意見が出ましたが、それに対して、「選んできている制服によって自分がトランスジェンダーであることが気付かれてしまう。」という意見が出ました。そこでどうすれば、トランスジェンダーの方も安心することができるかを考えた結果、「そもそも制服をなくせばいいのではないか。」という意見にまとまりました。性別にとらわれた服装をするのではなく、個性を尊重できる服装ができるのは、トランスジェンダーの方だけではなく、私たちにもメリットがあるという理由もあります。しかし、そのような意見を簡単に反映させることができないのが日本の現状です。これには、「学校の伝統を壊してしまうことになる。」「学校内の規律が守れなくなる。」「制服があたりまえという日本の常識」などという、さまざまな理由が存在します。

### ◇ 私たちの感想

私たちは、L G B T つまり、性的マイノリティーの人たちを、多くの人に理解してもらうためにこの活動をおこないました。

今回のフィールドワークでは、当事者の方々の苦勞を知ろうとし、交流をしいきました。

その結果、私たちは同じ人間であり、何のかわりもないとい。ただ、心の性別や性への感じ方が少し違うだけだ。と思いました。これは男女間の差と同じ違いではないのでしょうか。そして、男女が違うから馬鹿にするという人は少ないでしょう。だからこそ私たちはL G B Tだからと言って馬鹿にする人、いじめる人を少なくなったら嬉しいです。

そのために私たちは性的マイノリティーの人たちへの偏見をなくしていこうとL G B Tが何か特別な人たちではないということを知ってもらうために努力していこうと思います。



SDGsのロゴより

## 今回は、2年5組による 関市役所海づくり大会取り組み委員会フィールドワークの報告します。

### ◇関市役所を訪問し、海と森林の関係性について学びました！

日 時： 2018年8月

訪問先： 関市役所(海作り大会担当者)

内 容： 海と海なし県である岐阜県の関わりについて

参加者： 亀山幸聖 北野茉和 大塚悠生 村上涼大

### ◇海と森林の関係とは？ ～水をきれいに保つために～



海と森林は直接的ではないけれど、密接な関係があります。海なし県である岐阜で「全国豊かな海作り大会」が行われたのは、岐阜の県土は8割が森林を占めているからです。豊かな森林は豊かな川を形成し、豊かな川は豊かな海へとつながっています。明治時代は裸山が多く、雨が降ると直接地面に雨が当たり川に土砂が流れ、運搬され、海が汚れていました。しかし、今の状態は明治時代と逆です。今は植林した気が密集しています。これにより、木々が日光を遮り、地面まで届くことがないため、新しい芽が出ません。そのため、山自身の保水能力がとても低いのです。保水機能が低いと汚れた水が川に流れこみ、結果、海が汚れます。海のためにもおいしい水のためにも、この状況を変えなくてはなりません。そこで、今の岐阜県は伐採を必要としています。しかし、今現在林業関係者が減少しています。その理由は、仕事の大変さの割に給料

が少ないといったものです。関市では、「全国豊かな海作り大会」以来、市が手入れのされていない山の木を切り倒し、山の中に放置されている木を、市民が山の下まで運ぶボランティア活動をはじめました。そこに、市がボランティア活動で運んでくれた分だけの謝礼として金券を渡すことに決めました。また、ブリジストンという会社は、上之保でとれた木材を公共の建物を直したり、増設したりするなどして利用するサポートを始めました。

### ◇ 私たちの感想

私たちの住んでいる関市で行われている、放置山の伐採された気を山のふもとまで運ぶボランティアに参加して、山の地面に日光が届くようにして保水効果を向上させ、ついでに関市内の店で使える金券をもらい、使うことで関の街の活性化を手助けしたり、当たり前のことですが、川にごみを捨てないことはもちろん、山にごみを捨てないこと。身近なことで取り組めることは他にもたくさんあると思います。身近なことから始めていきたいです。

SDGsのロゴより



## 今回は、2年5組による森林アカデミーフィールドワークの報告をします。

### ◇森林文化アカデミーを訪問し、日本の森林保全について学びました！

日時：2018年8月2日(木) 10:00~11:30

訪問先：森林文化アカデミー(美濃市)

内容：森林保全について話を聞く

参加者：今瀬 敬斗 加賀 航士郎 西村 真祐 土田 真菜  
中嶋 峻人 下方 一輝 加藤 翔紀 小山 晶平

### ◇玉木教授から聞いたこと

- ・その土地にあった木を植える必要があり、その土地に合わない木を植えるとかえって木が減ってしまう。
- ・日本には現在天然林はほとんどなく人の手の加わった人工林がほとんどである。



・はげ山が多かった時代もあるが、すべて自然回復するため手を加える必要はない。

・森を保つためにはギャップを作るために伐採することも必要である。特に昔の木は現代の環境に対応できていないため伐採してしまっても問題がない。

・地球温暖化による森林への影響は少ない。

・むしろ現在の問題は鹿の増加に

よって新芽が食べられてしまうことにある。

### ◇ 私たちの感想

私たちは日本の森林保全をテーマに研究活動を行っています。今回のフィールドワークもその一環です。玉木教授から聞いたことから、植林も簡単なことではなく、よく考えて行動しなければならないということと、放置しておくことも大切だということ2つのことを学びました。

今後は学んだことをプレゼンテーションやポスターの展示などをしてみなさんに知ってもらえるよう啓発活動を行っていきたいと思います。



SDGsのロゴより

## 今回は、2年5組による関市役所フィールドワークの報告します。

### ◇ 関市役所を訪問し、ジェンダー差別について学びました！

日時：2018年8月3日(金) 13:00 ~ 14:00

訪問先：関市役所（協働推進部）

内容：痴漢について

参加者：笠井涼太 須田翔太 古山慶太郎 宮木皓太郎 村井遥紀

### ◇ ジェンダー差別とは？

世の中には、昔から今もなお様々なジェンダー差別があります。まず、前提となるのは女性のほうが男性に比べて弱い立場にいるということです。そして、その差を埋めるために様々な方法が用いられました。法であったり道具であったりです。しかし、現代ではそれが過剰になっているのではないかと思います。

それが大きくなりすぎないように我々若い世代の人々が対策を練る必要があります。例えば、今では問題となってしまった、女性専用車両をなくすことです。これがあることによって、男性専用車両はないのかという意見がでてきます。ならば、原因である物自体を消し去れば平等です。



### ◇ 私たちの感想

これまで私たちは、少ない知識の中でジェンダー差別を語っていました。しかし、様々なところで情報を得るたびに、いかに自分たちが無知であるかを痛感しました。まだまだ、知識は少ないですが、これからは学んだことを活用し、まずは学校からみんなの意識を変えていくことにします。

